

景気循環・経済成長の総合研究 景気判断モデルの構築と日本経済の実証分析

浅子 和美 (一橋大学・経済研究所・教授)

【研究の概要等】

本研究は、日本経済の適切な政策運営に役立てるために、日本経済の現状をより早く、よりの確に把握する体制を確立することを目的とする。より具体的には、景気循環の局面判断の観点からの日本経済の現状分析を行うとともに、コーポレート・ガバナンスの確立やインセンティブ・メカニズムのあり様、といった経済制度面での歴史的変遷を踏まえた上で、1990年代以降の経済成長率や生産性上昇率の鈍化の原因を解明し、イノベーションの活性化や産業構造の転換による日本経済の中長期的パフォーマンスの向上の可能性を探る。景気循環に対する政策対応、特に財政・金融政策のあり方と民間の反応、金融市場や労働市場におけるセイフティ・ネットの意義と経済効率性との齟齬、などについても極力定量的分析に努める。この際、既存の景気予測モデルのパフォーマンス評価、新しい景気判断モデルの構築、景気予測・景気判断のもととなる有用な景気指標の改善・開発といった計量面での精緻化も図る。

【当該研究から期待される成果】

どの国の経済にも拡張期・後退期あるいは好況期・不況期といった景気局面の循環があり、これ自体を消すことはできない。しかし、循環の幅を狭めたり拡張期や好況期を相対的に長くすることは可能であり、それが政府の経済政策に期待されるところでもある。本研究プロジェクトが目指すのは、そうした政策が成功を収めるように経済の理解を深めることであり、しかも定性的な面だけでなく定量的な理解も目指すことにより、現実の政策運営にも役立つと期待される。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・浅子和美・福田慎一（編）『景気循環と景気予測』東京大学出版会、2003年7月。
- ・浅子和美・原田信行「景況感とアンケート調査 変化方向と水準は異曲同工か？」一橋大学経済研究所『経済研究』55(2), 171-184頁, 2004年。
- ・浅子和美・安藤浩一・松本和幸「企業の景気判断と経営・財務状況」財務省財務総合政策研究所『フィナンシャル・レビュー』通巻第78号, 85-103頁, 2005年。
- ・浅子和美・宮川努（編）『現代の景気循環：理論と実証』東京大学出版会、近刊。

【研究期間】 平成18年度 - 22年度

【研究経費】 16,200,000 円

【ホームページアドレス】 現在は開設していない